

全科協ニュース

URL <http://www.jcsm.kahaku.go.jp/>

全国科学博物館協議会 ☎110-8718 東京都台東区上野公園 独立行政法人国立科学博物館 Tel.5814-9863 Fax.5814-9898 平成22年9月1日発行（通巻第234号）

特集：リニューアル館のご紹介

本紙では毎号、巻末において加盟館園の展示リニューアル等に関する情報を掲載しているが、この春から夏にかけては、多くの館園で大小様々なリニューアルが行われたようである。そのうち、展示室を閉鎖しての大規模な改修の機会に恵まれた3館について、経緯や見どころなどを詳しくご報告いただくこととした。今年度の研究発表大会（平成23年2月25日、千葉県立中央博物館）では科学系博物館の展示のあり方や課題がテーマとなる予定である。今後の議論につながれば幸いである。（国立科学博物館連携協力課長・本紙編集委員 亀井 修）

明石市立天文科学館の展示リニューアル

明石市立天文科学館 学芸員 井上 毅

1. はじめに

明石市立天文科学館は昭和35（1960）年6月10日（時の記念日）に、日本標準時子午線上に建てられた「時と宇宙」の博物館である。プラネタリウムを含む4階建ての展示棟と、高さ約53メートルの高塔がある。高塔上部には、展望室と天体観測室があり、塔頂に大時計が取り付けられている。阪神・淡路大震災では、プラネタリウムを除くほとんどすべての設備が甚大な被害を受け、復旧工事で3年2カ月休館した。特徴的な外観から「時のまち明石」のシンボルとして、また、開館と同時に設置されたドイツ・カールツァイス社製大型プラネタリウムとともに市民の皆様に長年愛されてきた。

展示室は3階、4階にある。アンケート調査でも一定の満足度の評価を得ていたが、年数の経過とともにいくつかの問題点が浮かび上がってきた。すなわち、①館の成り立ちを示す子午線についての展示が少ない、②子どもにわかりにくい展示が多い、③変化に乏しくマンネリ化している等。これらの解消のため、あの手この手で手作りの工夫をおこなってきたが、幸いなことに平成22年（2010年）に開館50周

年を迎えるにあたり、3階と4階を中心に展示室のリニューアル工事を実施することになった。

3階は「子午線のまち・明石」「天文ギャラリー」「時のギャラリー」「天体観測資料室」「特別展示室」「天文サロン」の6つのゾーンに、4階は「日時計広場」と「キッズルーム」の2つのゾーンに分かれる。先に述べた問題点を解消するため、①日本標準時子午線に関する展示の充実、②子どもから大人まで楽しめる展示空間、③変化する展示をキ



明石市立天文科学館 外観

ワードに柔軟な展示構成、といった点をポイントにした。
ここでは各展示ゾーンについて紹介する。

2. 展示内容

(1) 先人の想いを後の世に～子午線のまち・明石～

「子午線のまち・明石」は、来館者が、エレベーターや塔階段で3階に来たとき最初に出会う展示ゾーン。細密に子午線位置を表示した『明石のまちのジオラマ』を設置し、当館をはじめ、100年前に建立された日本最初の子午線標識などが東経135度子午線上に並んでいる様子を一望できる。当館の建設位置決定の天体観測に使用した貴重な『子午儀（明石市指定文化財）』も展示。子午線のまちを作り上げた明石の先人の熱い想いを伝えている。なお、7月16日、当館は国の文化審議会により国登録有形文化財に答申された。早速この話題を取り上げて展示をおこなっている。

(2) 宇宙を身近に～天文ギャラリー～

「天文ギャラリー」は、天文・宇宙に関する展示ゾーン。太陽系、銀河系・宇宙、宇宙開発の3つのコーナーに分かれ、宇宙全体を俯瞰できる構成になっている。太陽系のコーナーでは、以前まで太陽観測室として利用してきた空間を大幅にリニューアル。これまで床面に投射していた太陽面を壁面に投影し、晴天時にはH α 線で見えた迫力ある太陽のプロミネンスも見ることができる。以前に太陽像を映し出していたスペースには『太陽系儀』を設置した。ハンドルを回すと8つの惑星と冥王星と月が実際の周期に正確に比例して公転する。金星の満ち欠けや惑星の会合周期など理科

学習に活用できる。あまり活用されていなかったエリアが楽しい空間に生まれ変わった。銀河系・宇宙コーナーの中心には、『銀河系儀』を設置。来館者が宇宙の階層構造を理解し、宇宙観の形成をおこなう事ができる。『SHiPLA（シプラ）』は3m×2m、厚さ1mmの超薄型プラズマ・ディスプレイで、当館が世界で初めて導入した。宇宙に関する大迫力の映像を放映している。リニューアル直後、はやぶさが地球に帰還し話題になったことをうけ、はやぶさの紹介映像を流し、好評であった。

(3) 時を忘れて時を学ぶ～時のギャラリー～

時のギャラリーには、時計と暦の2つのコーナーがある。時計の展示では、江戸時代に日本で作られた和時計、国内外の日時計コレクション、日本標準時の決定に使われていた原子時計など珍しく貴重な時計も展示。展示ケースは前開きに改造し、展示更新を容易にした。暦のコーナーでは暦の基礎となる月の満ち欠けや地球の公転を知る体験展示を設置。人気スポットになっている。科学系博物館では対象となる実物資料があまり多くない。時や暦に関する資料は重要である。

(4) 太陽の恵み～日時計広場～

4階の日時計広場は、明石海峡を見渡せる心地よい屋外スペース。ここには赤道環型日時計や地球型日時計など6種の日時計を設置。人類最古の科学道具とされる日時計を楽しむことができる。このほか太陽と惑星の大きさ比べなどもあり、太陽の光を浴びながら太陽の恵みについて考えることができるゾーンとなっている。

(5) キッズルームとボランティア

キッズコーナーには授乳室に加え、惑星の模型おもちゃが入った幼児用クッション、絵本が並んだ書棚を用意。連日子どもたちで賑わっている。休日には絵本の読み聞かせなど天文ボランティアが活躍している。ボランティアは展示室や天体観望会でも活躍している。星の友の会会員で16歳以上の方であればだれでも参加できる。学んだことを他人に伝えることでより理解が深まるという生涯学習の場の提供という意味でボランティア活動は今後一層重要になると思われる。

(6) 50周年記念 特別展

3階には特別展示室を新設した。最初の特別



天文ギャラリー



ボランティアさんによる解説

展では開館50周年を記念し「時の展覧会2010」を開催。90年前の1920年（大正9年）に東京教育博物館（現国立科学博物館）で開催され大変な人気をよんだ「時の展覧会」紹介。当時出品されていた実物資料や同等の資料、関連資料など貴重な展示品約60点を国立科学博物館とのコラボミュージアムとして展示。渋川春海の天球儀レプリカ（国立科学博物館）やリーフラー時計（国立天文台）など貴重な資料について関係機関、関係者の協力により展示をおこなった。今後も定期的に内容を変え、変化する展示室を実現すること

になっている。

3. おわりに

このたびの展示リニューアルについて概要を紹介した。来館者数は順調に伸びている。6月10日の時の記念日には平日にもかかわらず7,000人を超える過去最高の入館者数を記録した。来館者のアンケートを見ても問題点としてあげた部分はかなり解消されたようである。しかしリニューアルすると新しい課題も出てくる。当館の使命は子午線の意義を伝えること、時と宇宙について学ぶ場を提供することである。そのために必要な資料収集や調査研究をすすめることが重要である。展示の企画を検討しながら、科学系博物館としての基礎力を磨くことの必要性を感じる。リニューアルはゴールではなく、次の段階への第一歩であると考えている。

謝辞

リニューアルにあたり多くの科学館の事例を参考にさせていただきました。深く感謝するとともに今後とも関係各位のご指導を賜りますようよろしくお願いします。

いわき市石炭・化石館「ほるる」リニューアルオープンにあたって

いわき市石炭・化石館 学芸課 菜花 智

はじめに

いわき市石炭・化石館は1984年（昭和59年）10月のオープン以来、25年にわたって市民のみなさまはもとより、いわき市のシンボリック観光学習施設として、多くのみなさまにご観覧・ご利用いただき、延べの入館者は560万人を超えております。

さて、この4月22日にいわき市石炭・化石館は、4,000件以上の応募から選ばれた「ほるる」という新しい愛称とともにリニューアルオープンいたしました。ちなみに「ほるる」の命名者は滋賀県の主婦の方で、応募のコメントによれば、石炭も化石も掘ることが基本となっていることから「ほる」、それに「る」を重ねて弾む心を表現したものとのこと。

今回のリニューアルは、大きく2つの要素を考慮したもの

でした。一つは当然ながら展示変更による観覧者の増員、そして、もう一つの要素が施設のバリアフリー化です。

生まれ変わった化石展示室

①リニューアルの考え方

この種の施設で25年間にもわたり、展示変更がなかったことは、ある意味異例なことといっても過言ではないと思います。とはいえ、展示ケース内の標本等については、総入れ替えに近い展示変更となっておりましたが、基本的なレイアウトがそのままであるため、展示替えをした印象にはなっていないのが実情でした。

今回のリニューアルに当たっては、地元有識者や、市民団体等からなるリニューアル検討委員会が立ちあげられ、それぞれの立場から意見が出されましたが、当然限られた

予算ということもあり、いただいた意見が十分反映できたわけではありませんでした。その中でおよその方向としては〈限られた予算である〉→〈全面的変更では変更イメージが極めて薄いものとなる〉→〈特定の箇所を重点的に変更したほうが効果的〉というものであり、重点変更箇所としては「1階化石展示室」および「2階石炭展示室」ということになりました。「石炭展示の核である模擬坑道は、これを変更するには相当の経費となる上、人気のコーナーでもあり基本的に現状を維持し解説等で補完することで十分である。化石展示室については、この25年の間に展示標本が増え、かなり込み入ったイメージとなっている、さらに世界の標本といわきの貴重な化石・鉱物標本が一堂に展示されており、いわきの貴重な資料が目立たないので展示を分けた方がよいのでは」という理由からでした。そこで、1階「化石展示室」は主に世界の化石を展示し、一定のエンタテイメント性を持たせる。2階を「標本・学習展示室」とし、おもにいわき市の化石・鉱物、石炭などの標本中心の展示とし、じっくり標本資料を見ることのできる空間とする、という基本方針が決定しました。

今回のリニューアルにより、「化石展示室」は、これまでのオーソドックスな一方方向の導線による列品展示から、地層をイメージした斬新な床面デザインを採用し、特定の見学導線を設けず自由導線となりました。これにより、以前に比べ、非常に開放的な空間を得ることができ、加えて音と光の演出で、より臨場感のある太古の世界を楽しんでいただけるような展示になりました。

このようなエンタテイメント性の強い展示法については、賛否があると思われますが、観覧者の増員をはかることが最大の課題であることから、ぎりぎりの線であったと考えます。特に、恐竜などを扱う展示施設の性格上、集客対象となるのが小学生以下の子供を持ったファミリー層であることは明確で、ある程度専門性以前の演出を考えざるを得ないことも理由の一つです。演出の概要は、「海の生物」、「陸の生物」、「空の生物」に大きく分けたコーナーに対しスポット照明をあて、各コーナーに適応させた効果音が出るというものです。当初の案では、恐竜の「鳴き声」なども入っていましたが、科学的根拠の問題があり、波の音や風の音など環境音で対応させました。また、特殊照明により三葉虫、アンモナイトや翼竜、ゾ

ウなど古生代、中生代、新生代に対応する生物の光の輪郭が動くという演出もあります。子供たちはそれを追いかけて嬉しそうなのですが、一般の観覧者に迷惑にならないか、また子供たち自身が転んで怪我などしないかなどの心配も絶えません。

②見て・触れて・感じる ハンズオン展示の導入

化石展示で今回のリニューアルの特徴の一つに「ハンズオン」の理念に基づき、直接さわることのできる実物標本コーナーを多数設置したことが挙げられます。

この展示の目的は、「見て・触れて・感じる」というものです。これまでも「化石に触れるコーナー」として応急的にハンズオンコーナーを設けておりましたが、今回は展示室内各所に分散する形で、計10箇所のハンズオン展示を設置しました。標本を展示ケース越しに見るだけでなく、化石そのものに触れることによって、より化石を身近に、さらに静的な標本展示をAV機器やメカによる演出以外で動的に見せる効果が得ることができていると思います。具体的には、新生代コーナーにマンモスの下顎、クジラ化石産状ブロック、珪化木、中生代コーナーに恐竜の糞化石、恐竜の足跡化石、恐竜の卵化石、エドモントサウルス大腿骨、アンモナイト化石密集産状ブロック、北海道産巨大アンモナイト、また巨大恐竜アパトサウルスの後肢をハンズオンとして配置しました。アパトサウルスの後肢については、以前も化石に触れるコーナーに設置してはありましたが、かなりの重量を支える台座フレームの問題から30cmほどの段差を登らなければ触ることができませんでした。今回のリニューアルでは、天井吊りとの併用で台座を小型化し車椅子の方でもすぐ脇に付けることができ、触れられる造作としました。



1階 化石展示室

③いわきの資料コーナー 2階学習・標本展示室

化石展示室から2階の「学習標本展示室」への移動には、窓付きのエレベーターを新設いたしました。今回のリニューアルの目的の一つがバリアフリー化にあったため、このエレベーターにより、身体に障害を持つ方はもとより、高齢者の方にも優しい施設となりました。

2階は、これまで「石炭展示室」として炭鉱で使用道具等を展示していました。この炭鉱機器類展示を模擬坑道の各時代に対応するステージに移し、「学習・標本展示室」として、いわき市産出の化石・鉱物・石炭の実物展示を



2階 学習・標本展示室

中心とした展示室に生まれ変わりました。展示室内は、かつての教室を基調にし、解説パネルも黒板やその板書をイメージしたものとしました。また、小中学校の理科で学ぶ「大地のでき方」や「示準化石」「示相化石」など地層や化石についての基本的な学習が実際の標本を見ながら行えるよう工夫されています。

「学習・標本展示室」の展示につきましては、当館ボランティアや、地元地学研究団体、地元高校生、そのほか多くの方々の協力によって作業を行いました。この展示室は、比較的自由度の高い作りとなっており、今後新たな資料その他にも随時対応できるようになっているので、今後継続的に育てていけるような展示の場にしていきたいと考えています。

さいごに

いわき市石炭・化石館「ほるる」は、多くの皆様のご支援・ご協力によりリニューアルされ、新たに出発することができました。壮大な地球の歴史と、いわき市を支えた炭鉱の歴史を体感できるこの施設をさらに多くのみなさまにご利用いただくとともに、「化石と石炭の町」いわき市を全国の方に紹介できる場でありたいと考えております。

檀原市昆虫館の挑戦～20年に一度のリニューアル～

檀原市昆虫館 学芸員 日比 伸子

1. はじめに

檀原市昆虫館は、奈良県中部の田園地帯に平成元年10月に開館し、以来195万人の来館者を迎えたが、収蔵場所の不足や展示のマンネリ化、施設の老朽化等の問題を抱え、21年目の昨年12月1日より本年5月末まで大規模リニューアル工事を行った。檀原市や昆虫館にとって20年に一度の一大事。今後の昆虫館像をイメージ付けるものであり、幅広い利用者の声や地域の要望、昆虫館を支えるサポーターの思い、専門家のアドバイス、展示業者の意見等を取り入れ、多彩な情報や多様な価値観から一つの昆虫館像を作り上げていかなくてはならない。一方、学芸員にとって、このような常設展示更新を体験できるのは、恐らく一生に一回のこと。期待よりも不安や重責の方が大きかった。

2. リニューアルに至る経緯

檀原市昆虫館では開館10年目を迎えた平成10年に、展示更新に関する見積りを徴し要望したが適わなかった。その後、何度もリニューアルの要望を挙げ、平成15年に教育委員会に移管、博物館登録を行った。平成18年に市議会にて改修の必要性が議論され、平成19年に基本構想を作成（同年市長が交代）。平成20年に再度内容を検討したところ、まちづくり交付金の補助により、新館施工等の見込みがつき、さらに市長判断により常設展示についてもリニューアルが決定した。結果、総事業費3億円弱、うち展示部分の更新には7,000万円余をかけてのリニューアル工事が決まり、平成21年12月から初の長期休館に入り、平成22年5月1日にプレオープン、6月1日にグランドオープンを迎えた。

3. リニューアルの経過と概容

今回のリニューアルでは、放蝶温室から渡り廊下で繋がる新館を増築。新館には1階にボランティア室・研究室・第二収蔵庫（中二階構造）等、2階に特別生態展示室・情報カウンター・実験の出来る研修室2を新設した。本館と新館を結ぶ渡り廊下にも展示スペースを設定し、企画展示を展開している。

既存の本館には、玄関前に雨でもゆっくり寛げるテントを新設。1階では、事務所や受付カウンター・会議室・トイレの内装を改修し、授乳・救護室を設置した。本館中二階にあった研究室を新館に移設し80名が収容できる研修室1に改修。小学校の出前講座や小規模な学会や研究会にも使用できて便利である。

常設展示については、生体展示を除く1階部分の展示を全て更新した。今回の展示は『見て、聞いて、さわって、感じる昆虫館』をテーマに、子ども目線で楽しめる展示をイメージして計画された。標本展示室1・2、及び生態展示室一部の展示を全て制作するため、100枚以上の展示パネル、映像や模型・体験型展示物・昆虫等の標本類（ドイツ箱約50箱）分を用意する必要があった。時間に追われる中、展示業者と打合せを重ね、展示物の内容やレイアウトを検討し、原稿を書き、写真や標本を探し集めていく作業が延々と続く。昆虫館の収蔵資料だけでは足りないため、写真撮影に走ったり、飼育室で録音したり、博物館や研究施設に提供して頂いたり…これらの作業は特別展等で多少の経験はあるものの、規模が大きく、内容や手法も多岐にわたるため、企画・設計・グラフィック・造形・メカ・映像や音響等、それぞれの専門家と連携しなくては成し得るものでない。私のような学芸員では経験も知恵も不足しており、展示業者の提案と知識に頼らざるを得ず、不安や迷いは絶えることなく、限られた時間の中で焦りだけが先行した。その際、他の博物館学芸員からの情報提供やアドバイスは本当に心強く、迷いを払拭し前進する力を与えてくれた。

新しい常設展示について全てをお伝えすることはできないが、標本展示室1の「生き物タイムトンネル」に始まり、標本展示室2にはマイクロスコープを使って標本を観察する「昆虫ラボ」や求愛フェロモンの匂い体験等、生態展示室では大和盆地周辺の里山を再現したオープンジオラマに手を



大和盆地周辺の里山を再現した
オープンジオラマ



ジオラマに手を差し出すと、
虫たち（映像）が
掌に乗って動き出す

差し出すと虫（映像）が掌に乗って動き出すちょっと不思議な「てのりぼっふ」等の体験型展示物等が設置され、『見て・聞いて・触って・匂う』展示展開となっている。

4. 展示リニューアルワークショップ（WS）の実施

地方の小さな博物館の日常業務では、学術的にも展示技術の面でも体験が限られる。しかし展示更新においては、新しい知見や正しい情報を収集し、広い視野にたつて『橿原市昆虫館らしさ』を表現することも重要である。この滅多に無い機会を博物館関係者で共有し、少しでも情報や知恵を得たいという思いと、リニューアルの経過を記録に残す必要性を感じ、昨年12月21日（月）に『展示リニューアルに関するワークショップ』を、NPO西日本自然史系博物館ネットワークと橿原市昆虫館の共催、展示制作担当(株)ムラヤマの協力で開催した。

展示更新を題材として開催したWSは、全国的にも初めてのケースでないかと思う。どのくらいの方が集まって下さるのか不安であったが、関東から九州まで学芸員や展示制作者、友の会やボランティア等博物館の利用者・関係者、計60名もの参加者が集まり、4時間以上にわたり白熱した議論が展開された。既に工事が始まっていたため、昆虫館では展示室等の見学のみ行い、別会場にて討論を実施した。趣旨説明後、リニューアルの概容を昆虫館長補佐から、展示更新の技術提案について展示業者から話題提供

し、バスで昆虫館に移動して実地見学を行った。その後、会場に戻ってコメントや質疑応答を展開した。

広い地域から異分野の参加者が集まり、予想以上に幅広く奥深い意見が多数得られた。リニューアルの最中にあり、目先の事だけに囚われていた私にとって、今一度広い視野に立つことや、初心に戻り優先すべきことを問い直す必要性に気付かされた。一方、展示業者側も博物館や学芸員の真の要望や気持ちを知って驚くことも多かったようで、このWSを機に、昆虫館では学芸員、展示業者、サポーターたちの距離がぐっと縮まり、本音で話し合える部分が増えた。そして現在も、展示物に関する疑問等については展示業者と率直に議論を重ね、職員で直せる展示物は自分達で改善し、アンケート等に敏感に反応して工夫すること等を実践できているのはWSの成果であると思う。



リニューアル・ワークショップから
(作成中の展示物を前にディスカッション)

5. 二段階オープン?! プレオープンとグランドオープン

橿原市昆虫館では、リニューアル工事が一段落した今年5月1日に本館部分のみプレオープンし、6月1日に新館も含め改めて全館グランドオープンした。大型商業施設では珍しくない手法であるが、小規模博物館では他に例を見ないのではないだろうか。実情は、奈良・平城京での遷都1300年祭があるので、来館者の見込める5月の大型連休に開館せよという政治的判断によるものだったのだが、プレの一ヶ月間は試行的な開館のため、来館者アンケートの結果を見ながら毎夕微調整を行い、さらに休館日等には展示業者に来て貰ってパネルの訂正や展示物の不具合を直す等、6月のグランドオープンに向けて発展的な修正を重ねることが出来たのは予想外のプラス面であった。一方開館業務をこ

なしながら、6月のグランドオープンや記念イベントの準備も進めなくてはならず、職員の負担が大きかったのも事実だ。

いよいよ新館を含めたグランドオープンを迎え、落成式やリニューアル初イベント『むし祭り』を開催し、それなりに盛り上がったが、二段階オープンという変則開館については、準備不足で活かしきれなかったという感が大きい。プレとグランドオープンのそれぞれのウリ・面白み・違いを明確化し、積極的な宣伝戦略を打ち出せば、もっとPR効果は上がったと思われる。

6. おわりに

さて、橿原市昆虫館におけるリニューアル工事の成果はどうだったのか？ まだ答えを出すには時期尚早だが…。プレオープン後の入館者数は、前年比1.2倍程度。多少淋しい気もするが、平城京遷都1300年祭の影響か、奈良県内の博物館・美術館が軒並み入館者を減らしていることを考えると、リニューアル効果は少なからずあったと考えてよいだろう。

工事自体は終わったが、今はまだ開館・運営するだけで精一杯なのも事実だ。これからリニューアルされた昆虫館を如何に学芸員たちが活かし、少しずつ展示を更新し教育普及に務め、昆虫館全体として進化し続けられるかが今後の昆虫館を左右する。

ちなみに年内に『リニューアル検証ワークショップ』を開催する予定である。ぜひ興味のある方々にお集まり頂き、昆虫館をご覧頂くと共に、博物館のリニューアルや展示制作について議論を重ね、博物館の展示力の向上をはかりたいと考えている。

今回ご紹介した3館の展示については、各館のホームページ等でより詳しくご覧いただけます。

いわき市石炭・化石館では、リニューアル工事の進捗状況も公開されています。橿原市昆虫館のワークショップについては、報告書が公開されており、11月にはリニューアルを検証するワークショップも開催されるそうです。

まずは、全科協ホームページの「全科協ニュース」のページをご覧ください。(事務局／守井)

■常設展情報

**米モアブ博物館の恐竜ホールで、ユタ州モアブ市周辺で
発掘された恐竜（竜脚類）の化石を公開**

公開開始：2010年7月23日

Museum of Moab, Moab, Utah.

<http://www.moabmuseum.org/pageview.aspx?id=17437>

**米スミソニアン自然史博物館の化石ホールで、ワシントンDC
周辺で発掘された恐竜の化石を公開**

公開開始：2010年4月28日

Exhibit Case: Dinosaurs in Our Backyard.

National Museum of Natural History, Washington DC.

<http://www.mnh.si.edu/exhibits/>

■企画展・特別展情報

<開催中>

仏パリ国立自然史博物館で、恐竜展を開催中

会期：2010年4月14日～2011年4月14日

Dans l'Ombre des Dinosaures.

Museum national d'Histoire naturelle, Paris.

<http://dinos.mnhn.fr/>

米フロリダ自然史博物館で、食肉甲虫展を開催中

会期：2010年9月4日～2011年1月17日

The Beetles: A Skeleton Crew.

Florida Museum of Natural History, Gainesville.

<http://www.flmn.h.ufl.edu/exhibits/upcoming.htm>

**米アメリカ自然史博物館で、国際巡回展「アムンゼンと
スコットの南極点到達の競争」を開催中**

会期：2010年5月29日～2011年1月2日

Race to the End of the Earth.

American Museum of Natural History, New York.

<http://www.amnh.org/exhibitions/race/>

独ベルリン技術博物館で、特別展「旧東ドイツの現代産業遺産の廃墟：マンフレッド・ヴィルヘルム写真展」を開催中

会期：2010年7月7日～10月31日

Rusty Pictures: Open-Cast Mining and Industrial Architecture in Eastern Germany.

Deutsches Technikmuseum, Berlin.

<http://www.sdtb.de/Rusty-Pictures.1686.0.html>

国立自然科学博物館（中華民国）で、放チョウ園を開催中

会期：2010年7月14日～12月12日

国立自然科学博物館, 中華民国台中市.

http://cal.nmns.edu.tw/NMNS_Cal/Detail_Ann.aspx?ANID=2902

英ロンドン自然史博物館で、放チョウ園を開催中

会期：2010年4月8日～9月26日

Butterfly Explorers.

Natural History Museum, London.

<http://www.nhm.ac.uk/visit-us/whats-on/butterfly-explorers/index>

**英王立医科大学付属博物館で、企画展「ハンス・スロー
ンの生涯」（生誕350周年記念関連展）を開催中**

会期：2010年7月5日～12月24日

Sir Hans Sloane: discovery, travels and chocolate.

Royal College of Physicians, London.

<http://www.rcplondon.ac.uk/history-heritage/Pages/history-heritage.aspx>

大英博物館の正面広場で、企画展「南アフリカの植物」（王立キュー植物園共催）を開催中

会期：2010年4月29日～10月10日

South Africa Landscape: Kew at the British Museum. British Museum, London.

http://www.britishmuseum.org/whats_on/all_current_exhibitions/south_africa_landscape/about_the_landscape.aspx

米ニューヨーク植物園で、企画展「食用植物」を開催中

会期：2010年6月19日～10月17日

The Edible Garden.

New York Botanical Garden, Bronx.

<http://www.nybg.org/eg/>

米メイン海事博物館で、企画展「船舶用推進システム（プロペラ）：航海に革命をもたらした機械工学の歴史と未来」を開催中

会期：2010年7月9日～11月8日

Heavy Metal: The Revolution Evolution in Marine Propulsion.

Maine Maritime Museum, Bath.

http://www.mainemaritimemuseum.org/what_to_see/exhibits/exhibit.php?exhibit_id=17

米シーレ自然史博物館で、企画展「海賊！」を開催中

会期：2010年5月12日～12月31日

Pirates!

Schiele Museum of Natural History, Gastonia.

<http://www.schielemuseum.org/>

<過去>

ベルギー王立自然史博物館で、企画展「クジラとイカ」を開催

会期：2009年10月14日～2010年8月29日

Whales & dolphins.

Museum of Natural Sciences, Brussels.

<http://www.naturalsciences.be/museum/exhibitions/present>

独ドイツ博物館で、企画展「海洋の未来」を開催

会期：2009年3月25日～2010年8月30日

The Future Ocean.

Deutsches Museum, Munich.

<http://www.deutsches-museum.de/en/exhibitions/special-exhibitions/2010/the-future-ocean/>

米ロサンゼルス自然史博物館で、放チョウ園を開催

会期：2010年4月11日～9月6日

Pavilion of Wings.

Natural History Museum of Los Angeles County.

<http://www.nhm.org/site/explore-exhibits/special-exhibits/pavilion-of-wings>

英コーンウォール海事博物館で、企画展「1859年竣工のゴッドレビー灯台の残像（ブライアン・ピアース、カートジャクソン等の作品展）」を開催

会期：2010年6月3日～8月29日

Godrevy Light.

National Maritime Museum Cornwall, Falmouth.

http://www.nmmc.co.uk/index.php?page=Whats_On&id=90&event_id=453

英コーンウォール海事博物館で、企画展「最後の灯台守（写真展）」を開催

会期：2010年6月3日～8月29日

Lighthouses: Life on the Rocks.

National Maritime Museum Cornwall, Falmouth.

http://www.nmmc.co.uk/index.php?page=Whats_On&id=90&event_id=428

http://www.nmmc.co.uk/index.php?page=Explore_the_Museum&movie=Lighthouses_1

http://www.nmmc.co.uk/index.php?page=Explore_the_Museum&movie=Lighthouses_2

英コーンウォール海事博物館で、特別展「クラシックヨットのレース“2010年ペンデニス杯”の記録」を開催

会期：2010年8月9日～8月14日

Pendennis Cup Exhibition.

National Maritime Museum Cornwall, Falmouth.

http://www.nmmc.co.uk/index.php?page=Whats_On&id=90&event_id=468

<http://www.thependenniscup.com/>

<開催予定>

米デンバー自然科学博物館で、特別展「アマゾン川の生物多様性」を開催へ

会期：2010年9月24日～2011年1月2日

Amazon Voyage: Vicious Fishes and Other Riches.

Denver Museum of Nature & Science, Denver.

<http://www.dmns.org/exhibitions/upcoming-exhibitions/amazon-voyage>

米フロリダ自然史博物館で、特別展「ミンディー・ライトハイプの昆虫画と植物画」を開催へ

Symbiosis: Butterflies, Moths and Plants.

2010年10月19日～2011年3月13日

Florida Museum of Natural History, Gainesville.

<http://www.flmnh.ufl.edu/exhibits/upcoming.htm>

米ロサンゼルス自然史博物館で、特別展「クモの生態」を開催へ

会期：2010年9月26日～11月8日

Spider Pavilion.

Natural History Museum of Los Angeles County.

<http://www.nhm.org/site/explore-exhibits/special-exhibits/spider-pavilion>

<http://www.youtube.com/user/NHMLA#p/u/18/-m0l6Iz9NuI>

米スミソニアン自然史博物館で、特別展「双曲かぎ針編み珊瑚礁の生態」を開催へ

The Hyperbolic Crochet Coral Reef.

会期：2010年10月16日～2011年4月24日

National Museum of Natural History, Washington DC.

<http://www.mnh.si.edu/exhibits/hreef/index.html>

米サンディエゴ自然史博物館で、企画展「馬」を開催へ

会期：2012年4月27日～2012年9月3日

The Horse.

San Diego Natural History Museum, San Diego.

<http://www.sdnhm.org/exhibits/index.html#upcoming>

*（やすいりょう）E-post: RGYasui@gmail.com

9月10月の特別展

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
むつ科学技術館	巡回展「電気の道」	9月28日～平成23年1月16日
岩手県立博物館	開館30周年記念特別展「いわての漆」	10月2日～11月7日
陸前高田市海と貝のミュージアム	世界のおもしろ貝展～ふしぎな貝たち～	7月19日～9月26日
奥州市牛の博物館	第19回企画展「厩の記憶～なぜ猿はそこに居たのか～」	7月29日～10月31日
秋田県立博物館	食われてたまるか！	7月24日～9月20日
山形県立博物館	教育資料館開館30周年記念展「三島通庸と洋風学舎～近代やまがたの学校～」	7月17日～9月26日
	企画展「縄文のキセキ～半世紀の時を越えて～」	10月9日～12月5日
郡山市ふれあい科学館「スペースパーク」	ホワイエ企画展「時空の地平線～大西浩次星景写真展～」	9月1日～10月31日
つくばエキスポセンター	企画展「切手でみる20世紀の科学技術の発展」	9月18日～9月26日
ミュージアムパーク茨城県自然博物館	第49回企画展「そうだ！海だ！海藻だ！」	7月10日～9月20日
栃木県立博物館	企画展「改革と学問に生きた殿様～黒羽藩主 大関増業～」	10月9日～11月23日
	テーマ展「キノコの森へ出かけよう！」	9月4日～11月23日
那須塩原市那須野が原博物館	「大恐竜展 陸・海・空の覇者 集結～」	6月26日～9月12日
群馬県立自然史博物館	第36回企画展「石になったものの記録」	7月17日～11月21日
川口市立科学館	特別展「昆虫ワールド～見てびっくり 知ってるほど 虫たちの世界～」	9月11日～10月24日
埼玉県立自然の博物館	企画展示「カエデ&もみじ～多様なかたち、山のにぎわい～」	9月18日～12月5日
千葉市科学館	秋の企画展「宇宙の日」記念 全国小・中学生作文絵画コンテスト 作品展	10月1日～10月18日
千葉県立中央博物館	秋の展示「きらびやかな世界の昆虫たち～多様な形と色彩～」	10月2日～11月28日
	生態園トピックス展「まちのコウモリ」	9月7日～10月31日
我孫子市鳥の博物館	第56回企画展「鳥たちの旅」	5月1日～9月20日
通信総合博物館	〈てがみ〉で〈えがお〉を奏でよう meets 葉加瀬太郎	9月11日～11月7日
国立科学博物館	企画展「あしたのごはんのために」	9月18日～平成23年1月16日
NHK放送博物館	NHK放送技術研究所80年展	7月6日～9月26日
	放送初期 なつかしの番組表	9月1日～11月28日
	がんばろうふるさと NHK全国放送局展 ～大阪放送局～	9月7日～10月31日
先端技術館@TEPIA	キッズデザイン賞	10月5日～平成23年2月27日
たばこと塩の博物館	特別展「和田誠の仕事」	9月11日～11月7日
多摩六都科学館	写真展 第31回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2010-2011」	9月11日～10月2日
	第10回日本万華鏡大賞・多摩展	10月9日～11月3日
馬の博物館	テーマ展「新収蔵資料の紹介」	6月12日～9月26日
	テーマ展「第70回記念 皐月賞の歴史」	6月12日～9月26日
	企画展「馬のコイン」	10月2日～12月5日
神奈川県立生命の星・地球博物館	特別展「日本列島20億年 その生き立ちを探る」	7月17日～11月7日
新江ノ島水族館	9月のテーマ水槽「国際生物多様性年～可笑しくも地球のなかまたち～」	9月1日～9月30日
	10月のテーマ水槽「生物多様性ってなんだろう」	10月1日～10月31日
黒部市吉田科学館	第5回 黒部市少年少女発明くふう展	9月17日～9月29日
	第5回 黒部市小中学校児童生徒 科学作品展覧会	10月1日～10月14日
富山市科学博物館	企画展「ふしぎいっぱい自然と科学」	9月12日～10月11日
	企画展「富山県科学展覧会」	10月22日～10月25日
福井市自然史博物館	第70回特別展「川のお魚大集合！福井の淡水ギョッ展」	7月17日～10月11日
佐久市子ども未来館	ミニ企画展「どうして辛いのか？トウガラシ展」	9月4日～10月11日
	巡回パネル展「地震の巣を解明せよ」	9月4日～10月11日
	ミニ企画展「長野県内の研究所-3」	10月16日～11月23日
岐阜県博物館	岐阜県文化財保護センター発掘速報展特別企画「飛騨美濃発掘20年」	9月18日～11月14日
富士川楽座 体験館どんぶら	‘おいしく、食べる’の科学展	7月17日～9月26日
ディスカバリーパーク焼津	特別展「くっつけ！磁石展」	9月11日～12月5日
豊橋市自然史博物館	第25回特別企画展「キラキラ水晶展」	7月16日～9月12日
碧南海浜水族館・碧南青少年海の科学館	特別展「生物多様性ってなあに？～愛知、生きもの今昔物語～」	7月17日～11月14日
産業技術記念館	トヨタコレクション企画展「江戸の医術のことはじめ～漢方と蘭方の出会い～」	7月17日～9月5日
	企画展「はじめまして、NIPPON。～写真に残る明治時代～」	9月18日～11月7日
名古屋市科学館 生命館 ※	名古屋開府400年・COP10開催記念企画展「生物多様性～あいちのニホンカモシカ」	10月11日～10月31日
あいち健康プラザ 健康科学館	秋の特別展示「ひらめき 脳育展」	9月18日～12月5日
トヨタ博物館	企画展「はたらく自動車」	7月17日～9月26日
	企画展「甦れ！クルマたち～博物館のレストア活動～」	10月9日～平成23年1月10日
真珠博物館	特別企画展「完全版 東「貝」道五十七次 ～江戸・日本橋から浪花・京橋へ～」	4月23日～平成23年4月3日
滋賀県立琵琶湖博物館	企画展示「湖底探検～びわ湖の底はどんな世界？～」	7月17日～11月23日
京都市青少年科学センター	第15回京都サイエンスコンテスト作品展示	10月23日～11月3日
大阪市立自然史博物館	第41回特別展「みんなでつくる淀川大図鑑～山と海をつなぐ生物多様性～」	7月24日～9月20日
	特別陳列「三木茂博士が収集したメタセコイア化石と水草標本」	7月24日～9月20日
兵庫県立人と自然の博物館	特別企画「ひょうごの生物多様性～瀬戸内海vs日本海」	7月17日～12月26日
明石市立天文科学館	天体写真展	9月4日～10月3日
	子午線標識建立100周年「子午線の文化展」	10月9日～12月5日

開 催 館	展 覧 会 名	開催期間
出雲科学館	ソニー教育財団「科学する心」を見つけよう 写真展	10月9日～11月7日
	巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」	10月1日～11月30日
	出雲市小中学生科学グランプリ	9月25日～10月3日
倉敷市立自然史博物館	第19回特別展「岡山県のレッドデータ生物」	7月17日～11月7日
広島市健康づくりセンター健康科学館	企画展「わたしたちのからだ アラカルト」～生活まご健康チェック～	7月17日～10月24日
	企画展「ふしぎ!おもしろ!お口の魅力大発見!」～知ってトクするお口の健康雑学～	10月30日～平成23年2月20日
防府市青少年科学館 ソラール	防府市小中学校科学作品展	9月29日～10月3日
	企画展「なつかしい玩具たちーブリキの鉄人28号もやってくる!ー」	10月16日～11月28日
山口県立山口博物館	歴史常設展示第Ⅱ期「山口県の郡」	9月8日～11月28日
	サイエンスやまぐち2010「第64回山口県科学作品展」	10月29日～11月14日
愛媛県総合科学博物館	巡回展「第31回SSP展」	10月9日～10月31日
北九州イノベーションギャラリー	「立体の夢 3D大集合展」	7月17日～9月26日
	「模型で学ぶ科学展」(仮)	10月8日～12月19日
福岡県青少年科学館	理科工作作品展	10月2日～10月17日
宮崎県総合博物館	「古代カルタゴとローマ展」～きらめく地中海文明の至宝～	7月31日～9月26日
	「宮崎の海のいきもの展」	10月23日～11月28日
沖縄県立博物館・美術館	八重山展	9月24日～11月23日

※名古屋市科学館は新館開館準備のため、平成22年9月1日から23年3月まで休館となりますが、生命館については、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催に併せて、平成22年10月11日から10月31日までの間、一時開館の予定です(無料、無休)。

リ ニ ュ ー ア ル

電力館

〔更新箇所〕 3、4階フロア

〔展示内容〕 3階「大切につかう～CO2の少ないくらし～」：ライフスタイルによって変わる1人ひとりのCO2排出量をシルエットで体験できる「CO2シルエット」など、家庭でできるCO2削減や電気の手な使い方について紹介。

4階「大切につかう～CO2の少ない街づくり～」：街から出ているCO2と電気を活用したCO2削減効果を最新の映像技術で体験できる「シティコープ」など、街のCO2を減らすカギとなるヒートポンプを中心とした電気のチカラについて紹介。

〔公 開 日〕 平成22年7月12日



(電力館4階)

富士川楽座

〔更新箇所〕 4階 わいわい劇場

〔更新内容〕 MEGASTAR-ⅡB、ステラドームプロが連動したハイブリッドシステム及びフルハイビジョンプロジェクターの導入。

〔公 開 日〕 平成22年7月17日



東海大学海洋科学博物館

〔更新箇所〕 一般水槽ホールに新コーナー「駿河湾の深海生物」を設置

〔展示内容〕 今年で40周年を迎えた当館でこれまで収集した深海生物の標本を一堂に会し、駿河湾の最深度2,450mに暮らす、図鑑でしかお目にかかれない貴重な生物の標本約150を一挙に展示。

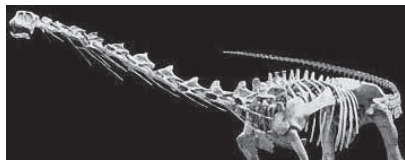
〔公 開 日〕 平成22年7月25日

〔施工業者〕 東海教育産業(株)



— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の
標本及び模型を探しご案内いたします —

マラウイサウルス
ティタノサウルス科
全長—10m



株式会社 ゼネラルサイエンスコーポレーション

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802

TEL:03(3583)0731 / FAX:03(3584)6247

e-mail:sizensi@shibayama.co.jp

http://www.shibayama.co.jp

より良い「社会交流空間づくり」にむけて—。

調査・企画・デザイン・設計・制作・施工・監理・
運営およびコンサルティング・プロデュース

Tanseisha

株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野5-2-2

TEL.03-3836-7221(代表) http://www.tanseisha.co.jp

札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡・那覇

*ISO14001認証取得・プライバシーマーク認定取得

小さなボディに大宇宙を詰め込んだ、最新デジタルプラネタリウムシステム

メディアグローブ II (MEDIAGLOBE-II)

メディアグローブIIは世界で初めてフルカラー投影を可能にした
小型デジタルプラネタリウム“メディアグローブ”の後継機種。
地上で見られる星空の投影だけでなく、3D天文データベースに
よる宇宙旅行シミュレーションまで可能になりました。星空自動
解説機能、簡単操作で番組を自作できる機能やマクロボタンなど
使い易さも格段にレベルアップして運営面もご心配りません。
小規模スペースに神秘的な大宇宙をお届けします。



コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

東京事業所 〒173-0003 東京都板橋区加賀 1-6-1

大阪事業所 〒550-0005 大阪市西区西本町 2-3-10 西本町インテス 11 階

東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町 1-8

TEL (03) 5248-7051

TEL (06) 6110-0570

TEL (0533) 89-3570

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向／教育用地学標本



since 1974

地学標本／化石・鉱物・岩石
古生物／レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks

株式会社 **東京サイエンス**

TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745

http://www.tokyo-science.co.jp

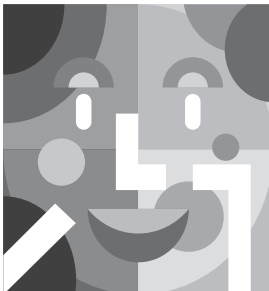
E-mail:info@tokyo-science.co.jp

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

NOMURA

人が集う場、
そこにはいつも
楽しさとか、
おどろきとか、が
溢れています。



Prosperity Creator
NOMURA
http://www.nomurakougei.co.jp

集客環境づくりの調査・コンサルティング、
企画・デザイン・設計・制作施工
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 **乃村工芸社**

本 社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171(代表) 〒135-8622

営業拠点：札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・北京・上海

シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

Panasonic
ideas for life

パナソニックだから、
可能なソリューションがある。

Core Products

Security

Cross Media

Mobility

Total Solution

コンサルティング営業

SI・アプリケーション開発

施工・設置

保守・メンテナンスサービス

運用サービス

Japan

Challenge to Change! パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

詳しくはホームページで panasonic.co.jp/pss/pssj/

全科協ニュース編集委員

國府田 良樹 (ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料長)

佐久間 大輔 (大阪市立自然史博物館学芸課学芸員)

田代 英俊 (科学技術館企画広報室長)

畠山 泰英 (八坂書房編集部編集員)

平濱 美紀子 (ディスカバリーパーク焼津主任)

亀 井 修 (国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課 (担当：守井)

Tel.03-5814-9863 Fax.03-5814-9898

発行日 平成22年9月1日

発行 全国科学博物館協議会◎

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 島崎印刷株式会社